

IBM Planning Analytics
最終更新: 2017 年 5 月 23 日

Planning Analytics の新機能

IBM

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、21 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は IBM Planning Analytics に適用されるものであり、後続のリリースにも適用される可能性があります。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Planning Analytics

Last updated: 2017-05-23

Planning Analytics New Features

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

Licensed Materials - Property of IBM

© Copyright IBM Corporation 2007, 2017.

目次

はじめに	v
第 1 章 IBM Planning Analytics Workspace の新機能	1
第 2 章 IBM Planning Analytics for Microsoft Excel の新機能	3
IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel バージョン 10.3 で導入された機能	6
第 3 章 Cognos TM1 Performance Modeler の新機能	9
第 4 章 Cognos TM1 Server の新機能	11
Planning Analytics v2.0.2 の新機能	13
第 5 章 Cognos TM1 Web の新機能	15
第 6 章 Cognos Insight の新機能	19
特記事項	21

はじめに

本書では、IBM® Planning Analytics の新しい機能について説明します。

IBM Cognos® TM1® は、ビジネス計画、パフォーマンス測定、および運用データを統合します。それにより企業は地理的または構造的状況に関係なく、ビジネスの効果性および顧客との対話を最適化することができます。Cognos TM1 では、データの即時の可視性、協調プロセス内の説明責任、および情報の一貫した表示が可能になります。

情報の検索

Web 上でドキュメント (各言語版のすべてのドキュメントを含む) を入手するには、IBM Knowledge Center (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter>) にアクセスしてください。

サンプルに関する特記事項

Sample Outdoors 社、Great Outdoors 社、GO 販売、Sample Outdoors または Great Outdoors の名前のすべてのバリエーション、および Planning サンプルでは、IBM および IBM のお客様向けのサンプル・アプリケーションを開発するために使用されるサンプル・データにより、架空の企業活動が描出されています。これらの架空データには、販売取引、商品流通、財務、および人事のサンプル・データが含まれます。実際の名前、住所、電話番号、または取引額との類似は偶発的なものです。また、サンプル・ファイルの中には、手動またはコンピューターで生成された架空のデータ、学術的ソースまたは公共のソースを基に編集された実際のデータ、著作権所有者の許可を得て使われているデータなどが、サンプル・アプリケーションを開発するためのサンプル・データとして使用されている場合もあります。参照される製品名は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。無断の複写は禁止されています。

ユーザー補助機能

ユーザー補助機能は、動作が制限されている方、または視力の限られた方など、身体の不自由な方に情報技術製品をご使用いただけるように支援します。IBM Cognos TM1 は、一部の構成要素でユーザー補助機能をサポートしていません。IBM Cognos TM1 Performance Modeler、IBM Cognos Insight、および Cognos TM1 操作コンソールはユーザー補助機能に対応しています。

将来予想に関する記述

このマニュアルでは、本製品の現在の機能について説明しています。一部の内容で、現在利用できない項目について言及している可能性があります。これは、将来利用できるようになることを意味するものではありません。そのような内容は、資料、コード、または機能の提供に向けた取り組み、確約、あるいは法律上の義務を意味するものではありません。機能の開発、リリース、時期や機能性は IBM の独自の決定によるものとします。

第 1 章 IBM Planning Analytics Workspace の新機能

クラウドとオンプレミス環境で、Planning Analytics Workspace の同じ機能を利用できるようになりました。Planning Analytics Workspace は、Microsoft Windows と Linux のオペレーティング・システムにインストール可能です。

Planning Analytics Workspace の機能は、継続的デリバリー・コンポーネントとして継続的に追加または拡張されていきます。Planning Analytics Workspace のドキュメンテーションには、新しい機能と変更された機能のリストが含まれています。詳しくは、IBM Knowledge Center の [New and changed features in Planning Analytics Workspace](#) を参照してください。

第 2 章 IBM Planning Analytics for Microsoft Excel の新機能

IBM Planning Analytics for Microsoft Excel には、新しい機能があります。

詳しくは、IBM Knowledge Center にある IBM Planning Analytics for Microsoft Excel (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSD29G_2.0.0) の資料を参照してください。

新しいブランド、ルック・アンド・フィール

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel は、IBM Planning Analytics Workspace との密接な関係を反映するよう、IBM Planning Analytics for Microsoft Excel としてリブランドされました。これには、IBM Planning Analytics Workspace セット・エディターおよび Cube Viewer の機能の採用が含まれます。

以下の機能も、リブランドされています。

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel の用語	IBM Planning Analytics for Microsoft Excel の用語
クロス集計	閲覧ビュー
フレックス・ビュー	クイック・レポート
数式	カスタム・レポート
静的	スナップショット

ツールバーとアイコンも新たにされ、頻繁に使用される機能にアクセスしやすくなりました。また、新しいルック・アンド・フィールでは、他の IBM Planning Analytics 製品との整合性の点でも向上しています。

タスク・ウィンドウでの変更点

IBM Cognos Analysis ウィンドウが再設計され、IBM タスク・ウィンドウという名前に変更されました。

現在 2 つのタブがあります。最初のタブには、データ・ソース・ツリーが含まれています。ソース・ツリーには、TM1 サーバーのキューブ、ビュー、ディメンション、レベル、セット、およびその他の関連するオブジェクトが表示されます。ソース・ツリーのデータを使用することにより、閲覧ビューやレポートを作成します。

2 番目のタブはワークブック・タブです。そこには、作成された 動的レポート、閲覧ビュー、アクションのボタン、およびクイック・レポートが含まれます。閲覧ビューやレポートのスナップショットへの変換、プロパティの設定、データのクリアやリフレッシュなどのアクションを実行できます。

IBM Cognos TM1 Perspectives の機能のサポート改善

動的レポート

IBM Planning Analytics for Microsoft Excel で動的レポートを作成したり操作したりできるようになりました。動的レポートは、以前、Cognos TM1 Perspectives でアクティブ・フォームと呼ばれていました。動的レポートを使用すれば、TM1 の機能と Microsoft Excel の機能を組み合わせて動的な書式設定を適用できます。

ワークシート関数

以下のワークシート関数が使用可能になりました。

- TM1ELLIST: 単一の式を使用することにより、TM1 モデルからエレメント値のセットを返します。
- TM1GLOBALSANDBOX: ツールバーから選択された現在のグローバル・アクティブ・サンドボックスを返します。
- TM1INFO: 現在の TM1 のバージョンとクライアントについての情報を返します。
- TM1PRIMARYDB: ユーザーの認証に使用された 1 次 TM1 サーバーの名前を返します。ユーザーが複数の TM1 サーバーに暗黙的にログインしている場合でも返すことができます。

操作ボタン

アクション・ボタンは IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel バージョン 10.3 のクラウド専用リリースで導入されました。このリリースでは、「オプション」画面において TM1 Perspectives のアクション・ボタンをアップグレードすることができます。

IBM Planning Analytics Workspace との共有コンポーネント

セット・エディター

IBM Planning Analytics for Microsoft Excel では、IBM Planning Analytics Workspace で使用されているのと同じセット・エディターが使用されます。

Cube Viewer

Cube Viewer を使用することにより、同時に複数のキューブ・ビューを開いておくことができます。また、キューブ・ビューから 閲覧ビュー、クイック・レポート、動的レポート、またはカスタム・レポートを作成できます。

Microsoft Excel のグリッドの代わりに Cube Viewer を使用してデータを操作できます。

複数階層のサポート

閲覧ビューおよびクイック・レポートでは、1 つのディメンションに複数の階層を表示できます。

注: IBM Planning Analytics for Microsoft Excel で階層を表示することは可能ですが、IBM Planning Analytics for Microsoft Excel で階層を作成することはできません。階層は、Planning Analytics Workspace で作成するか、または TurboIntegrator プロセスまたは TM1 REST API を使用することによって作成できます。詳しくは、IBM Knowledge Center (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSD29G_2.0.0) を参照してください。

セキュリティ認証モードのサポート

IBM Planning Analytics for Microsoft Excel では、セキュリティ認証モード 1、2、3、4、5 がサポートされています。旧バージョンでは、モード 1 と 5 がサポートされていました。セキュリティの設定については、「*Planning Analytics* インストールおよび設定」の資料を参照してください。

IBM Planning Analytics for Microsoft Excel の IBM Planning Analytics サーバーにおいて、フォーム・ベースの認証 (FBAC) はサポートされなくなりました。

Cognos TM1 Web および IBM Planning Analytics Workspace においてクイック・レポートが使用可能

クイック・レポートを TM1 サーバーに発行することができます。それらは、Cognos TM1 Web および IBM Planning Analytics Workspace においてライブ Web シートとして利用可能です。ライブ Web シートは、TM1 サーバーへの接続を維持します。サーバー上のデータが変更されると、Web シートにもその変更が反映されます。

「接続」ボタンによる新しい接続の追加

IBM Planning Analytics のタブにある「接続」ボタンから、サーバーへの新しい接続を直接追加できるようになりました。

新しい API 関数

このバージョンでは、閲覧、クイック・レポート、および動的レポートのアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) 関数の新たなサポートおよびドキュメンテーションが追加されています。

「オプション」画面での新しい設定値

設定ファイルを手動で更新する代わりに、「オプション」画面でさらに多くのオプションを設定できます。

設定できる汎用オプションとして追加されたものは、以下のとおりです。

デフォルトの展開方向

ダブルクリックした場合のデフォルトの展開方向を設定できるようになりました。

自動配分統合入力

集約セルに入力された値を比例配分操作に自動的に変換できます。

コミットされていない変更に関するプロンプト

更新の実行前に表示する確認プロンプトを有効にすることができます。

閲覧またはリストの設定値のオプションとして追加されたものは、以下のとおりです。

ダブルクリックで展開

集約メンバーをダブルクリックで展開できるようになりました。

コンテキスト・ドロップダウンで合計を許可

コンテキスト・ディメンション・ドロップダウンの「合計」ボタンを有効にできるようになりました。この機能を使用すれば、ディメンション・ドロップダウンのすべてのアイテムを簡単に選択できます。

コンテキスト・メンバーのドロップダウン制限

コンテキスト・ドロップダウンの展開時に表示するメンバーの数を定義することができます。

クイック・レポートの設定値のオプションとして追加されたものは、以下のとおりです。

レベル・ベースのインデントを使用

クイック・レポートでレベルに基づくインデントを有効にすることができます。

数式の書き戻しがデフォルトで有効になる

数式の書き戻しを手動で有効にする必要がなくなりました。この機能はデフォルトで有効になります。

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel バージョン 10.3 で導入された機能

以下の新機能は、IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel バージョン 10.3 のクラウド専用リリースで追加されました。これらは、IBM Planning Analytics for Microsoft Excel のローカル・インストールでの新機能です。

操作ボタン

操作ボタンを使用して、TurboIntegrator プロセスを実行したり、ワークシート間をナビゲートしたり、ワークシートを再計算したりできます。

TM1 サーバーへのワークブックの発行

TM1 レポートが含まれるワークブックを TM1 サーバーの Applications フォルダに発行できるようになりました。ワークブックを発行すると、それを TM1 Web のユーザー、IBM Planning Analytics Workspace のユーザー、およびその他の IBM Planning Analytics for Microsoft Excel と共有することができます。リスト、閲覧ビュー、クイック・レポート、アクティブ・フォーム、およびカスタム・レポートを発行できます。

リスト、および閲覧ビューは、TM1 Web および IBM Planning Analytics Workspace において静的 Web シートとして表示されます。つまり、データを TM1 サーバーから読むわけではないため、サーバー上のデータに変更があっても変更されません。カスタム・レポート、およびアクティブ・フォームは、ライブ Web シートとして表示されます。

注: バージョン 2 以降、クイック・レポートもライブ Web シートとして表示されるようになりました。

ライブ Web シートは、TM1 サーバーへの接続を維持します。サーバーのデータが変更された場合、ライブ Web シートにその変更が反映されます。

クイック・レポートでのデータのコミット

クイック・レポートでデータをコミットする際のオプションが追加されました。「変更のコミット」ダイアログ・ボックスでは、事前検証せずに、変更されたセルのみを検証およびコミットするか、すべてのセルをコミットするかを選択できます。アップロード中にエラーが発生した場合は、エラー・レポートが表示されます。レポートには、エラーの場所とエラーの説明が示されます。

ワークシートのコピーと移動

クイック・レポートが含まれるワークシートを移動またはコピーすることができます。ワークシートのコピーと移動は、ワークブック内、またはワークブック間で実行できます。

注: クイック・レポートを移動またはコピーするには、IBM Planning Analytics for Microsoft Excel が実行中でなければなりません。

クイック・レポートでのダブルクリック・アクションの指定

クイック・レポートで作業する際のダブルクリック・アクションを指定できるようになりました。

シングル・サインオン

「シングル・サインオンの有効化」機能はデフォルトで有効となるようになりました。シングル・サインオンを使用すれば、IBM Cognos Controller、IBM Cognos Disclosure Management、または IBM Planning Analytics for Microsoft Excel にログインしているユーザーは、これらのうちの別のアプリケーションを開始する際に認証を再度求められることはありません。この機能を使用するには、IBM Cognos サーバーでシングル・サインオンを有効にしておく必要があります。

API 関数

アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) が拡張され、新しい関数が追加されました。

- `GetSettings` 関数を使用して、`CognosOfficeReportingSettings.xml` ファイルに設定の取得、設定、および保存を行うことができます。

API 関数の詳細については、「IBM Planning Analytics for Microsoft Excel」を参照してください。

第 3 章 Cognos TM1 Performance Modeler の新機能

IBM Cognos TM1 Performance Modeler には、新しい機能があります。

IBM Planning Analytics Local バージョン 2.0 には、クラウド上の IBM Planning Analytics 用に Cognos TM1 Performance Modeler 10.3.0 で導入されたすべての機能も含まれます。

注: 詳しくは、IBM Knowledge Center の *New features in Cognos TM1 Performance Modeler version 10.3.0* を参照してください。

IBM Planning Analytics Local バージョン 2.0 では、次の機能が導入されました。これらの機能について詳しくは、*IBM Cognos TM1 Performance Modeler* の資料を参照してください。

モデル全体の規則の再生成

一度に 1 つのキューブの規則を再生成する代わりに、モデル全体の規則を再生成できるようになりました。「モデル設計」ウィンドウで、サーバー名を右クリックし、「規則の生成」を選択します。

コントロール・キューブへのクイック・アクセス

コントロール・キューブをダブルクリックすることにより、コントロール・キューブのビューを素早く作成することができます。以前は、コントロール・キューブを右クリックしてから新しいビューを選択していました。ビューの名前はコントロール・キューブと同じです。ただし、中括弧は付きません。

「モデル設計」ビューにおけるオブジェクトのフィルター処理と検索

「モデル設計」ビューでは、特定の基準に一致するオブジェクトを検索したり、フィルター処理したりできます。例えば、sales が含まれるすべてのオブジェクト (規則、キューブ、プロセス、サブセット、リンク、ビュー、ディメンション、および日課を含む) を検索することができます。また、どのオブジェクトを検索対象とするかを指定して、選択的検索を実行することもできます。例えば、tent という語を含むすべての規則のリストを取得することができます。

ディメンション内の要素の検索

大きいディメンションを編集する際には、ナビゲーションが困難になることがあります。これを容易にするために、ディメンション・エディターで開かれているディメンションの既存の要素を検索できます。

キューブ計算におけるインポートされた用語の削除と名前変更

キューブ計算で使用される用語を削除したり名前変更したりできるようになりました。キューブ計算は用語に合わせて動的に更新され、計算が有効であることがチェックされます。

第 4 章 Cognos TM1 Server の新機能

IBM Cognos TM1 サーバーには、新しい機能があります。

IBM Planning Analytics Local バージョン 2.0 には、クラウド上の IBM Planning Analytics 用に Cognos TM1 Server 10.3.0 で導入されたすべての機能も含まれます。

注: 詳しくは、IBM Knowledge Center の *New features in Cognos TM1 server version 10.3.0* を参照してください。

IBM Planning Analytics Local バージョン 2.0 では、次の機能が導入されました。これらの機能については、IBM Knowledge Center にある「*TM1 for Developers*」、 「*TM1* リファレンス」、および「*TM1 REST API*」の資料を参照してください。

階層

ディメンション内に複数の階層を作成することができるようになりました。この機能は、TM1 REST API、TurboIntegrator プロセス、および Planning Analytics Workspace モデル作成によってサポートされます。この拡張機能には、以下のメリットがあります。

- キューブ設計の効率向上
- キューブ処理の速度向上
- 属性分析
- ディメンションの構造化
- 動的分析
- シナリオ・プランニングの再編成
- Planning Analytics Workspace の統合とモデル作成の機能

マルチスレッド・フィーダー

マルチスレッド・フィーダーは、使用可能な数の CPU コアを利用することにより、一括フィーダー作成およびキューブ・フィーダーの更新のパフォーマンスを向上させます。この機能を有効にしたり設定したりするための 3 つの `tm1s.cfg` 設定値 (`MTFeeders`、`MTFeeders.AtStartup`、および `MTFeeders.AtomicWeight`) が追加されました。詳しくは、「*TM1 Rules*」の資料のマルチスレッド・フィーダーの説明を参照してください。

個々のキューブのマルチスレッド・ロード

マルチスレッド・キューブのロードのパフォーマンスが、大幅に改善されています。この機能を有効にしたり設定したりするための `tm1s.cfg` の新しい設定値 (`MTCubeLoad`、`MTCubeLoad.MinFileSize`、`MTCubeLoad.Weight`、`MTCubeLoad.UseBookmarkFiles`、および `IndexStoreDirectory`) が追加され、以前のアプローチ (`MaximumCubeLoadThreads` 設定値により有効にされる) よりも機能が高速になっています。また、`MTCubeLoad` を使用することにより、フィーダー世代シー

ケースが変更されるというリスクがなくなります。 **MTCubeLoad** が有効な場合、 **MaximumCubeLoadThreads** 構成オプションは無視されます。

TM1 サーバー管理者は、tm1s.cfg の新しい設定値 (**PreallocatedMemory.Size**、**PreallocatedMemory.ThreadNumber**、および **PreallocatedMemory.BeforeLoad**) を使用することによって、事前割り振りメモリーを構成したり、スケールアップやパフォーマンスの結果を最適化したりすることができます。

TI データ・ソースとしての MDX ビュー

以前は、MDX 式を使用することによってビューを作成したり保存したりすることができました。このリリースからは、MDX ベースのビューを TurboIntegrator データ・ソースとして使用できます。

Microsoft Windows での複数コアのサポート

TM1 サーバーのマルチスレッド・クエリーに対する 64 の CPU コア数制限がなくなりました。プロセッサ数が 64 より多い Microsoft Windows プラットフォームでも、この機能とそのパフォーマンス上の利点を十分に活用することができます。

IPAddress tm1s.cfg パラメーターの廃止

IPAddress tm1s.cfg パラメーターは廃止され、**IPAddressV4** および **IPAddressV6** に置き換えられました。これらのパラメーターを使用することにより、TM1 クライアントの要求のルーティングをパブリック・アダプターとプライベート・アダプターのどちらで行うかを指定できます。デフォルト動作では、パブリック IP アダプターが使用されます。この場合は、ファイアウォール・プロファイルの変更が必要になります。

新しい TurboIntegrator トランザクションのロールバック機能

日課管理を支援するための TurboIntegrator の 4 つの新しい機能 (**ChoreRollback**、**ProcessExitByChore**、**ProcessRollback**、および **ProcessExitByChoreRollback**) が追加されました。詳しくは、「*TM1* リファレンス」の資料を参照してください。

新しい TM1 REST API

IBM Planning Analytics Local 2.0 の TM1 REST API スキーマのタイプ、アクション、および機能が追加または変更されました。これには、TurboIntegrator のデバッグ・コンテキストのサポートが含まれます。

詳しくは、「*TM1 REST API*」の資料の Schema を参照してください。

TurboIntegrator のデバッガー・ツール

IBM developerWorks から、TurboIntegrator のデバッガー・ツールにアクセスできます。このツールで提供されるユーザー・インターフェースにより、ブレークポイントを設定して TurboIntegrator プロセスをステップスルーし、TurboIntegrator スクリプト内に潜在する問題やエラーを突き止めることができます。 TurboIntegrator Debugger は、TM1 REST API の新しい TurboIntegrator プロセス・デバッグ機能を利用して作成されています。現在のところ、これはプレビュー・リリースであり、

サポートされる IBM Planning Analytics Local 2.0.0 コンポーネントではありません。

Planning Analytics v2.0.2 の新機能

IBM Cognos TM1 サーバーには、新しい機能があります。以下の新機能は、クラウド専用リリースの IBM Planning Analytics および IBM Planning Analytics Local バージョン 2.0.2 で追加されました。

HTTP サポートがデフォルトで有効になる

以前のリリースでは、**HTTPPortNumber** tm1s.cfg パラメーターはオプションでした。API を利用する REST API 機能およびアプリケーションをサポートするには、このオプションを指定する必要があります。 **HTTPPortNumber** が tm1s.cfg ファイルで定義されていない場合、ポート番号「5001」が自動的に割り当てられます。

MDXSelectCalculatedMemberInputs がデフォルトで有効になる

MDXSelectCalculatedMemberInputs tm1s.cfg パラメーターは、オプションではなくなり、この tm1s.cfg パラメーターはデフォルトで有効になります。

TM1 サーバーの自動シャットダウンを回避するための新しい構成パラメーター

ネットワークの問題によってトランザクション・ログへのアクセスがブロックされる際の、TM1 サーバーの自動シャットダウンを回避できます。次の 3 つの新しい tm1s.cfg パラメーター、**FileRetry.FileSpec**、**FileRetry.Count**、および **FileRetry.Delay** を使用して、この機能を有効にすることができます。

第 5 章 Cognos TM1 Web の新機能

IBM Cognos TM1 Web には、新しい機能があります。

IBM Planning Analytics Local バージョン 2.0 には、クラウド上の IBM Planning Analytics 用に Cognos TM1 Web 10.3.0 で導入されたすべての機能も含まれます。

注: 詳しくは、IBM Knowledge Center の New features in Cognos TM1 Web version 10.3.0 を参照してください。

IBM Planning Analytics Local バージョン 2.0 では、次の機能が導入されました。これらの機能について詳しくは、IBM Knowledge Center にある「*TM1 Architect, TM1 Perspectives, and TM1 Web*」の資料を参照してください。

TM1 Web の階層

TM1 Web シートでは、1 つのディメンションに複数の階層を表示できます。

注: TM1 Web では、階層を表示することはできますが、階層を作成することはできません。階層は、Planning Analytics Workspace で作成する必要があります。詳しくは、IBM Knowledge Center の Planning Analytics Workspace を参照してください。

IBM Planning Analytics for Microsoft Excel のクイック・レポートを使用して階層を開くことができます。

クイック・レポート (旧称「フレックス・ビュー」) は、ライブ Web シートとして発行されます。ライブ Web シートは、TM1 サーバーへの接続を維持します。サーバーのデータが変更された場合、ライブ Web シートにその変更が反映されます。

クイック・レポート について詳しくは、IBM Knowledge Center の Planning Analytics for Microsoft Excel を参照してください。

注: 相対比例配分および相対割合調整は、TM1 Web で開いたクイック・レポートではサポートされません。

TM1 Web API の拡張機能

TM1 Web API には、以下の新しい機能があります。

- IBM Planning Analytics Local 2.0.0 では、TM1 Web JavaScript ライブラリー・モジュールをロードするのに、TM1 Web で提供されるバージョンの Dojo を使用する必要はなくなりました。TM1 Web では、Dojo バージョン 1.7 以降の AMD ローダーを使用して、JavaScript ライブラリー・モジュールをロードできるようになりました。
- JavaScript ライブラリーを使用するために必要な HTML の <head> タグと <body> タグがシンプルになりました。

- JavaScript ライブラリーの `tmlweb/api/session/session` モジュールを使用することによってユーザーは、ログオンしたり、セッション・トークンに基づいてセッション情報を取り出したり、セッション・トークンに基づいてセッションを破棄したりすることができます。
- JavaScript ライブラリーの `tmlweb/api/session/LoginDialog` モジュールを使用することによってユーザーは、ログオン・ダイアログ・ボックスを表示したり破棄したりすることができます。
- JavaScript ライブラリーの `tmlweb/api/Workbook` クラスは、アクション・ボタン実行後に実行情報を公開します。 `onActionButtonExecution` メソッド API によりユーザーは、アクション・ボタンがクリックされた時点で、既存のワークブックを置換したり、新しいものを作成したりすることができます。
- `tmlweb/api/Workbook` クラスおよび `tmlweb/api/CubeViewer` クラスには、 `subset` および `subsets` のセット・プロパティおよびメソッドが含まれています。

詳しくは、「*TM1 for Developers*」の資料の『*TM1 Web API*』を参照してください。

リレーショナル Web シート

TM1 Web において、リレーショナル・データを TM1 データと同じ Web シートで表示できるようになりました。Excel ファイルでリレーショナル・クエリーを定義し、そのファイルを TM1 Web にアップロードすることで、同じ Web シートまたはタブで結果を表示できます。これにより、OLAP データとリレーショナル・データを一緒にレポートの対象にすることができるようになります。

詳しくは、IBM Knowledge Center の Working with relational data in Websheets (https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSD29G_2.0.0/com.ibm.swg.ba.cognos.tml_ug.2.0.0.doc/c_relational_data_websheets.html) を参照してください。

TM1 Web のアクセシビリティ

TM1 Web には、キーボードだけを使用して作業を実行できるようにアクセシビリティ機能が組み込まれています。例えば、Web シートに関連したメニューやダイアログ・ボックスへのキーボード・ナビゲーションやキーボード・アクセスなどの機能があります。

- コンテキスト・メニューにアクセスする場合は、**Shift + F10** を使用します。コンテキスト・メニューでは、上矢印キーと下矢印キーによって項目を選択できます。
- Web シート内の行を展開したり折りたたんで省略表示にしたりする場合は、スペース・バーを使用します。
- セット・セレクターにアクセスする場合は、スペース・バーを使用します。検索と矢印キーとツリーの間を移動するときは、Tab キーを使用します。ツリー内で項目間を移動する場合は、上矢印キーと下矢印キーを使用します。ツリー内でフォーカスした項目を選択する場合は、Enter キーを使用します。

注: セット・セレクターにアクセスして変更を加えた後に Esc を押して終了すると、元のセルのフォーカスは失われます。フォーカスはメインページに移ります。

ワークブックでの Excel 図形のサポート

Excel の図形 (基本図形、矢印、バナー、等式図形、線など) を、TM1 Web のワークブックに追加することができます。サポート対象およびサポート対象外の Excel 図形のリストについては、List of Microsoft Excel-supported functionality by menu in IBM Cognos TM1 Web version 10.2.2 and later を参照してください。

TM1 Web のシングル・サインオン

統合ログオン (Kerberos) およびアプリケーション・サーバーのセキュリティ層を使用して、IBM Cognos TM1 Web のシングル・サインオンを設定できます。シングル・サインオンを使用すれば、HTTP ユーザーは TM1 Web に一度ログオンするだけで済むようになります。

詳しくは、「*Planning Analytics* インストールおよび設定」の資料の『*Kerberos* および *SPNEGO* を使った *Cognos TM1 Web* の統合ログオンの設定』を参照してください。

TM1 ワークシート関数

以下のワークシート関数が使用可能になりました。

TM1ELLIST

単一の式を使用して、TM1 モデルからエレメント値のセットを返します。

TM1GLOBSANDBOX

ツールバーから選択された現在のグローバル・アクティブ・サンドボックスを返します。

TM1INFO

現在の TM1 のバージョンとクライアントに関する情報を戻します。

TM1PRIMARYDB

ユーザーの認証に使用された 1 次 TM1 サーバーの名前を返します。ユーザーが複数の TM1 サーバーに暗黙的にログオンしている場合でも返すことができます。

第 6 章 Cognos Insight の新機能

IBM Cognos Insight には新機能があります。Cognos Insight は、IBM Planning Analytics Local の 1 つのコンポーネントとしてインストールされるようになりました。

IBM Planning Analytics Local バージョン 2.0 には、Cognos Insight バージョン 10.2.2 のフィックスパックで、また、クラウド上の IBM Planning Analytics 用に導入された Cognos Insight バージョン 10.3.0 で導入されたすべての機能が含まれています。

注: Cognos Insight の旧リリースでの新しい機能については、IBM Knowledge Center の *Cognos Insight* の資料の中の新機能を参照してください。

IBM Planning Analytics Local バージョン 2.0 では、次の機能が導入されました。詳しくは、IBM Knowledge Center にある *Cognos Insight* 資料を参照してください。

セルが選択されると行ヘッダーと列ヘッダーが強調表示される

グリッドでセルが選択されると、Excel におけるのと同じように、対応する行ヘッダーと列ヘッダーが強調表示されます。強調表示の色はセルの色と一致します。

コンテンツ・ウィンドウでのオブジェクトの検索

コンテンツ・ウィンドウでオブジェクトを検索できます。正確なオブジェクト名が分からない場合や、特定の基準に一致するオブジェクトを見つける必要がある場合は、フィルタリングの基準にする文字を入力できます。検索では、ツリー内のオブジェクトのうち、基準に一致するものがすべて検出されます。

ディメンション・エディターでのメンバーの検索

大きいディメンションを編集する際には、ナビゲーションが困難になることがあります。これを容易にするために、ディメンション・エディターで開かれているディメンションの既存の要素を検索できます。

セルの新しい右クリック・メニュー・オプション

セルの右クリック・メニューで、以下の 2 つの新しいオプションを使用できるようになりました。

- エクスポート
- ウィンドウ枠の固定

以前は、これらのオプションはウィジェット・ツールバーでのみ使用できました。

特記事項

本書は IBM が世界各国で提供する製品およびサービスについて作成したものです。

この記述は、IBM から他の言語で提供されている場合があります。ただし、これ入手するには、本製品または当該言語版製品を所有している必要がある場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。本書には、お客様が購入されたプログラムまたはライセンス資格に含まれない製品、サービス、または機能に関する説明が含まれる場合があります。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Software Group
Attention: Licensing
3755 Riverside Dr.
Ottawa, ON
K1V 1B7
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

この「ソフトウェア・オフファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

商標

IBM、IBM ロゴ、および [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

- Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。